

講演から



平瀬有人氏

「ミリユールから
マテリアルへ」

県と木曽町が建設した御嶽山
ビジターセンター「やまテラス
王滝」と同「さとテラス三岳」
の二つの施設を設計した平瀬有
人氏 (YHa architects、佐賀大
学准教授) がJIA長野県クラ
ブの「第17回建築祭」の文化講
演会に登壇。「ミリユールからマテ
リアルへ」と題し、自身の研究

県と木曽町が建設した「御嶽山
ビジターセンター」2施設を設計

とそれに基づく仕事を紹介。昨
年オープンした御嶽山ビジター
センターの設計について説明し
た。

◇ ◇
「建物が周辺の環境とどう呼応
し、あるいはどう立ち振る舞っ
ているかに興味を抱いている」

平瀬氏は「社会的・文化的な
環境」を意味するフランス語「ミ
リユール」を通して、その土地の
背景を考えながら、「マテリア
ル」としての建築の在り方、建
築デザインについて考察するこ
とを自身の研究テーマとして紹
介。

視点の切り口として「マルチ
フレイミング」(複数の枠)、「ア
ダプティブリユース」(歴史的建
築物の保存と活用の両立)、「ラ
ンドフォームアーキテクチャー」
(地勢的建築)、「ライトインフラ
ストラクチャー」(季節や時間に
応じて変化する動的建築)の四
つの建築表現を挙げる。御嶽山
ビジターセンターはこれらの研
究テーマを意識して設計してい
る。

県と町による二つの御嶽山ビ
ジターセンターは、「ともに生き

る」「つなぐ」「変化をもたらす」
を共通のテーマに、県が整備し
たやまテラスは、御嶽山の登山
口前にあり、さとテラスは木曽
町にある。二つの施設は約30km
離れた敷地にありながら、共通
のテーマに沿いながらも、それ
ぞれの場所に応じたあり方が求
められたとする。

平瀬氏は、プロポーザルにあ
たって木曽谷の町並みに多い「赤
い屋根」を採用し、地元の溶岩
交じりの石を蛇籠に詰めた「溶
岩ウォール」の外壁とした。ま
た、御嶽山や地域との通じるゲ
ートとなる「大階段」を建物中
央に配置することを共通のデザ
インとして提案した。

やまテラスの施設内は展示物
とともに、「欄間の向こうに御嶽
山が切り取られて見えることが
重要と考えた」とする。

さとテラスは王滝川に面し、
大階段を下りていくと「木曽駒
ヶ岳が風景の中にフレイミング
されてくる」と紹介。施設内部
はやまテラスと同様に「展示物
とガラス越しに木曽駒ヶ岳が見
えるような、山と川が見える構
成とした」。